

5月の安全運転のポイント 平成26年5月号

車を運転中に、自転車が急に道路を横断してきた、脇道から飛び出してきたなど、ヒヤリとしたりハッとした体験をお持ちの方も少なくないのではないのでしょうか。そこで自転車に対する注意点や事故を防止するためのポイントをまとめてみました。



自転車に対する注意点

後方の確認をせずに道路横断や進路変更をすることがある

道路の左端を通行する自転車は、駐車車両などの障害物があると右側に進路を変更してくることがあります。また、障害物がない場合でも、道路の反対側に自分の行きたい場所があると、急に道路を横断してくることがあります。

一時停止をせずに脇道から飛び出してくることがある

自転車を利用する人のなかには交通ルールをよく理解していない人もいます。そのため一時停止の標識や標示があってもそれらに注意を払わず、安全確認をせずに飛び出してくることがあります。

歩道から急に車道に出てくることがある

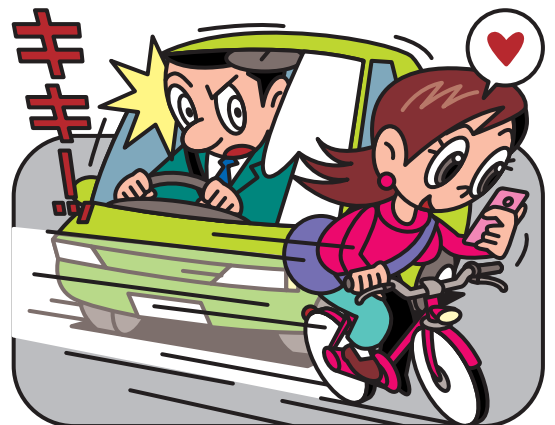
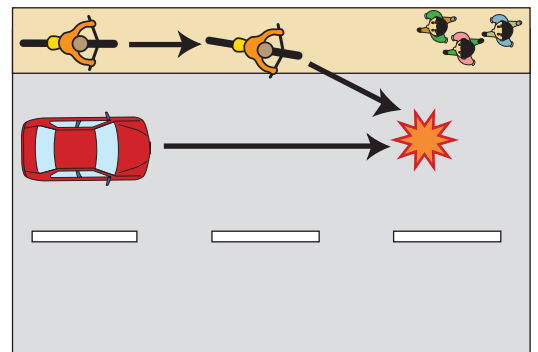
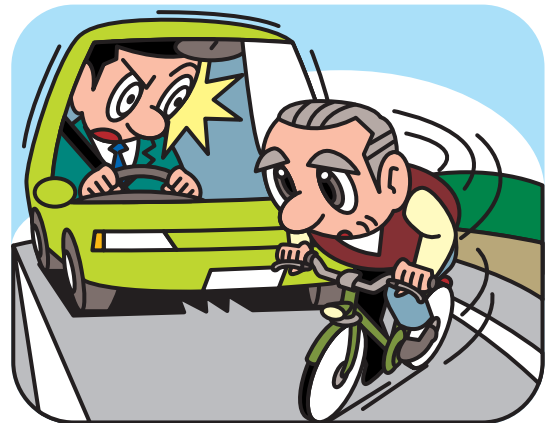
自転車は車道通行が原則ですが、実際には歩道を通行する自転車も少なくありません。歩道を通行する自転車は歩行者などにより進路を塞がれると、いきなり車道に出てくることがあります。

携帯電話などを使用していて車に気づかないことがある

携帯電話やスマートフォンなどを使用している自転車は、走行が不安定になるばかりでなく、周囲に対する注意力も低下してしまい、車の接近に気づかないことがあります。また、ヘッドホンを使用していると周囲の音が聞こえにくいため、接近してくる車に気づくのが遅れやすくなります。

路面の変化や風などでふらつくことがある

自転車は路面の変化や横風などによりふらつくことがあります。特に子どもや高齢者の乗った自転車、前後に子どもを乗せた二人乗り、三人乗りの自転車、カゴに多くの荷物を入れた自転車などは不安定で、ちょっとしたことでふらついたり転倒することがあります。

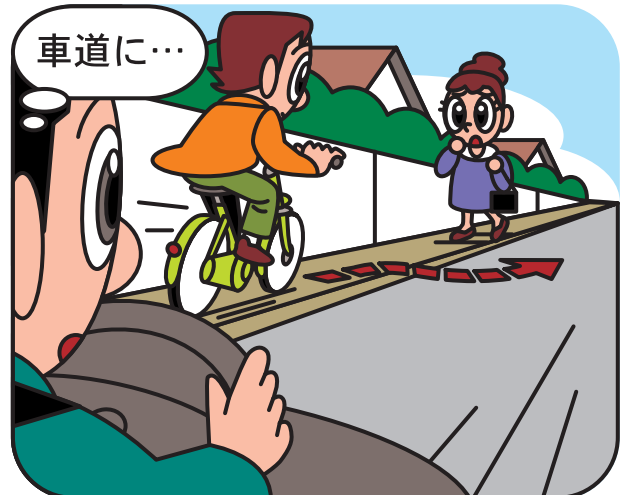




自転車との事故を防止するためのポイント

進路変更や道路横断に備える

前方を自転車が走行しているときは、その先の状況に目を配り、駐車車両などの障害物があるときは自転車の進路変更を予測してスピードを落とし、先に行かせるようにしましょう。また、障害物がない場合でも、急な進路変更や道路横断があるかもしれないと考えて、自転車の挙動に十分注意しましょう。



脇道からの飛び出しを予測する

住宅街などの脇道や十字路のある道路を走行するときは、あらかじめスピードを落とすとともに、見通しの悪い脇道や十字路に接近したときは飛び出しを予測して、ブレーキの上に足を乗せておくなど、すぐに対応できる態勢をとっておきましょう。

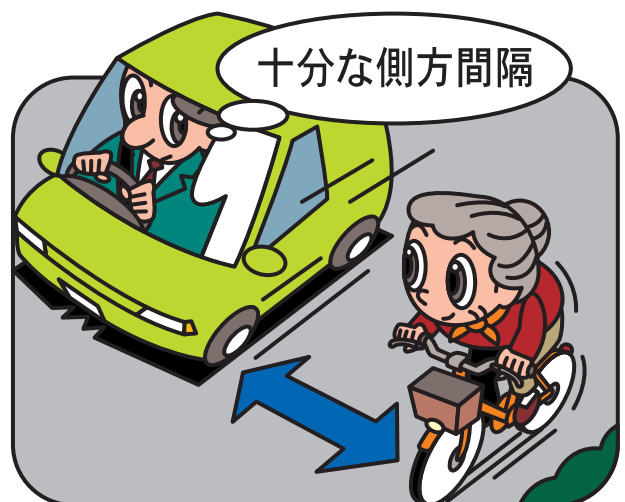
また、前方の脇道から1台の自転車が出てきたら、続いて数台の自転車が出てくるかもしれないと予測し、脇道の手前で一時停止するくらいの慎重さで進行しましょう。



歩道を通行する自転車の動きにも注意する

自転車が歩道を走行しているからといって決して油断はできません。歩道の先の状況に目を配り、歩行者などにより自転車がそのまま進行しにくい状況にあるときは、車道に出てくることを予測して、スピードを落とすとともに左側に寄り過ぎないようにしましょう。

また、歩道と車道の境目にガードレールなどが設置されている場所では、その切れ目から自転車が車道に出てくることがありますから、そのような場所では十分に注意しましょう。



側方を通過するときは十分な間隔をとる

自転車の側方を通過するときは、安全な側方間隔をとる必要があります。特に子どもや高齢者の乗った自転車、二人乗り、三人乗りの自転車、携帯電話やスマートフォンなどを使用している自転車などの側方を通過するときは、ふらつきなどを予測して十分な間隔をとりましょう。道路状況により、十分な間隔がとれない場合には徐行して進行しましょう。

「ご相談・お申込先」